

平成29年度 守ろう美しい北海道！海ごみ・ポイ捨て防止大会 開催概要

- 開催日時 平成30年1月12日〈金〉 13:30~15:50
  - 開催場所 ホテルポールスター札幌 2階 セレナード
  - 出席者 受賞者・随行者 30名  
大会関係者 8名  
一般参加者 45名
  - 表彰式 (13:30~14:05)  
次の各表彰を執り行った。
    - ・ 北海道知事感謝状（生活環境浄化実践優良地区）
    - ・ 北海道ゼロ・エミ大賞
    - ・ 平成29年度ごみの散乱防止などに関するポスター及び標語
  - シンポジウム (14:10~15:50)
    - ・ 司会・進行 北海道教育大学札幌校 教授 鈴木 明彦 氏
    - ・ 事例報告者 北海道容器包装の簡素化を進める連絡会 事務局 東 飛郎 氏  
北海道博物館 研究職員 圓谷 昂史 氏  
NPO 法人 北海道スポーツ GOMI 拾い連盟 事務局 四辻 梨奈 氏
- 別添資料に基づき、各者から15分程度、取組状況等について説明。その後意見交換。





鈴木 ～ ビーチコーミングについて、十分にはお話しできなかったが、全国的に見ると、北海道は漂着ごみは多くないところといわれている。実際に海岸を歩いてみると、場所によって集まりやすいところとそうでないところがある。

北海道の地域的な特徴として、ごみは春に雪解けで出現し、春先には、河川から大量に押し寄せてくる。

漂着ごみ、漂流ごみの区分がある。海面に浮いているごみは常に移動している。打ち上げられると漂着ごみになるが、また海に戻る。海流によって北の方へ行って、また、打ち上げられる。その地域からは一時的にはなくなるが、他の地域へ移動している。プラスチック類は、分解されないの、常に海を循環している。

マイクロプラスチックは、動物などが食べて、体の中に取り込まれている。プラスチックは、有害物質を取り込んでいて、どんどん濃縮されていく。人の体の中に取り込まれていく可能性がある。

プラスチックのごみは、陸上、海を問わず、半永久的になくならないものである。もとのところで、それを減らしていく。海ごみだけでなく、地球全体で考えなくてはならない。

より早く分解されるプラスチック、分解されやすいプラスチック類、漁網等をどうしていくかが課題である。強度、コストの問題があり、環境と産業をいかに両立させるかが難しい。

これからの世代の人たちに、海ごみ問題をどのように伝えていくかが課題といえよう。

東 ～ 容器包装簡素化事業を始めて10年となる。

連絡会の中でもそろそろ次の展開をという声が出ていて、新しい事業として、ごみが出る前の発生抑制対策を実施。プラスチックごみをいかに発生させない、海ごみの発生抑制も視野に入れた展開を図っていきたい。

そのためには、いろいろな人たちとの連携が必要と考えている。展示会を定期的にやっているの、博物館で所有している展示品を使わせていただくとか、本日の出会いを大切に、みなさんと連携していきたい。廃品を利用して何かを作るという取組を年間100回以上やっている。

発生抑制ということでは、お祭りで使い捨て容器を使わず、リユース容器

の使用を推奨している。貸し出し事業をやっている。

圓谷 ～ 博物館では、漂着物の展示物を無料で貸し出しを行っている。大体のものは揃っているのですが、お声かけをいただきたい。

環日本海環境協力センターでは、毎年全国の漂着物の実態調査をしているが、2011年以降、北海道のデータがない。積極的にデータをとっておいの方が良い。博物館単体で参加するのは難しい。

表面に見える漂着物だけではなく、埋没しているものが多い。砂浜だと5センチくらい掘ったら、プラスチック類が結構出てくる。埋没しているものも調べることで、具体的なデータができるのではないかと思う。

博物館としては、展示と教育の部分で皆さんと連携して行ければ良いと思っている。

四辻 ～ 一般の人に参加してもらって、少しでも意識を変えてもらおう。今、入り口のところ。ごみを少なくする、ごみを出さないためにはどのようにしたら良いのかに対し、たどり着けていないのが現状。ごみを捨ててはいけないという意識は勿論、どうしたら減らせるかを考えてもらうことが重要。

札幌市内でやることが多い。今後は、海でもやってみたいと思っている。お声かけをいただきたい。

鈴木 ～ せっかくの機会でもあるので、ご来場の方からもご意見をいただきたい。

〈一般〉～ 日本のごみはどこから来るのか。

鈴木 ～ 7、8割は私たちが出したごみ、日本起源のごみであり、圧倒的に多い。これらは今も太平洋を回っている。

圓谷 ～ ロシアでは、漂着物は少ない。落ちているものはロシア製。身近なものが多い。

〈一般〉～ 大樹町でのスポーツ GOMI 拾いは、現地の方を募集したのか。

四辻 ～ 地元の十勝毎日新聞、教育委員会、商工会、協同組合等で実行委員会を結成し主催で実施。現地で選手、審判を募集した。

〈一般〉～ 海濱清掃は、人海戦術。ぜひ、石狩の浜でやっていただきたい。

鈴木 ～ ごみを拾う、ごみを少なくする、これは実践的な運動に関わってくる。これから普及も重要である。

これまで、個別に行われてきた。今後さらに視野を広げ、連携を深めて、特に若い人たちが海ごみに関する見識を広めていただくことが望まれる。

